

# 第1 特集

## 高齢者のCKD診療

### 高齢者CKD診療のバイブルに！

日本の高齢化率は上昇のなかにあり、1970年に高齢化社会へ突入し、1995年には高齢社会、そして2010年には超高齢社会を迎えた。慢性腎臓病(chronic kidney disease：CKD)は、人口の高齢化とともにその患者数は増えており、高齢CKD患者の診療の在り方が問われる時代になった。

CKDは国民病と広く認知されるようになり、CKDという言葉は市民権を得たといってもよい。現在は高齢CKD患者の増加に伴い、CKDは腎臓専門医のみが取り扱う領域ではなくなり、プライマリ・ケア医を中心としたかかりつけ機能をもつ医師が日常の管理をする機会が多くなっている。また、入院診療においては併存疾患としてCKDを有する高齢者は増加傾向であり、CKDに関する基本的な知識を必要とする機会が多くなっている。しかし、「CKD診療はよくわからない」、「腎疾患は苦手」という相談を受けることが多いのも実情である。

今回の特集では、高齢者CKD診療に関する知識を、わかりやすく、苦手意識を払拭することを目的に、高齢者CKD診療の現在、輸液と電解質、高齢者CKDと治療薬、の3本立ての構成とし、外来、入院の場面ですぐに役立つ内容になっている。プライマリ・ケアの分野に造詣が深い腎臓専門医、総合診療医の先生方にご執筆いただくことで、プライマリ・ケア医の視点に立ったものにもなっている。本特集が、高齢者CKD診療のバイブルとなり、実臨床に役立つものになることを切望する。

編集幹事

島根県立中央病院 地域総合医育成科／  
島根大学医学部附属病院 総合診療医センター

小田川誠治